

会報 JAMT

JAPANESE ASSOCIATION OF MEDICAL TECHNOLOGISTS

発行所
一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会
発行責任者 横地常広
編集責任者 深澤憲治
〒143-0016 東京都大田区大森北4丁目10番7号
TEL (03) 3768-4722 FAX (03) 3768-6722
ホームページ <https://www.jamt.or.jp>

P1～P2 令和7年度医療安全管理者養成講習会（アドバンスコース）開催報告

P2～P4 全国「検査と健康展」2025 各地からの報告 第4回

P4 佐賀県臨床検査技師会 「災害時の救護活動に関する協定」を佐賀県と締結

P5 HUG研修会を開催して（長野県臨床検査技師会）

P6 季刊誌『ピペット』に寄せられた感想をご紹介

令和7年度 医療安全管理者養成講習会（アドバンスコース）開催報告

令和7年度 医療安全管理者養成講習会（アドバンスコース）は、平成31年度～令和3年度に医療安全管理者養成講習会（基本コース）を受講した方を対象として開催しました。テーマを「医療安全管理技術のスキルアップ」とし、医療現場における安全管理の現状について情報共有し、より実践的な医療安全管理手法の活用方法を学びました。

本年度はオンデマンド配信の受講および現地開催への参加を修了の条件としています。令和7年12月19日（金）に行われた現地開催の感想を紹介いたします。

竹村侑加（泉大津急性期メディカルセンター）

次年度から、リスクマネージャーとして安全WT委員会に入ることが決まった2021年に基本コースを受講し、今回資格更新のために初めてアドバンスコースを受講しました。

2021年はコロナ禍だったため、オンラインでの講義とZoomを利用して研修を受けました。基本コースの時も他施設の安全対策を知ることができるグループディスカッションの時間などがあり有意義な時間ではありましたが、時系列事象関連図作成は実際にできる環境ではなかったため今一内容がつかめていない状態になっていました。

今回、講師の春日先生から、基本コースの復習、ImSAFER分析手順【Level IIとIIIの追加】、時系列事象関連図作成、背後要因の探し方、エラー防止策の発想手順を学びました。

エラー防止対策のなかで、一番の対策は【やめること】と知り、『間違えるならやらなければいいんですよ、実際に可能かどうかは別問題』と聞き、今まで手間や確認作業ばかりが増える対策案でそんな発想が出なかつたなと思いました。

また、復習のなかで、コフカの説明の物理的空間と心理的空間の不一致によるマッピングの失敗がヒューマンエラーになりました。

【本人は正しいと判断して行動している】という考え方で、基本コースで学んだときから興味深いなと感じていたのですが、実際の事例などから『そう判断するのか』と思ったり『これ、間違えても仕方なくない?』と思うものなどエラー対策はその時の当事者の立場、視点から考えないといけないことを再確認しました。



現地開催の様子

午後からはグループワークで配布された資料から時系列事象関連図を模造紙に付箋を貼り付けながら作成、分析対象者を決めP-E情報整理表を作成、背後要因を探り、改善策の列举までを行いました。基本コースで習得が不十分だったことを、みんなで意見を出し合いながら実際に体験できたことは貴重な経験でした。

今後は、この講義で得た知識と経験を活かし、医療安全に貢献できるように取り組んでいきたいと思います。

最後になりましたが、講師の春日先生、企画運営に携わられた日臨技の皆様、一緒に研修をともにした受講生の皆様に感謝申し上げます。

岡野真以子（神戸百年記念病院）

この度、医療安全管理者のアドバンスコース研修に参加しImSAFER (Improvement for medical System by Analyzing Fault root in human Error incident)について学びました。ImSAFERは医療現場で起きるインシデントやアクシデントを分析して改善につなげるた

めの手法で、現場で実際に働く人でも扱いやすいように工夫されています。研修では時系列事象関連図を作ったり、「なぜなぜ分析」で問題点や背後要因を探ったあと改善策を考えて実施・評価する手順まで、一つひとつ丁寧に学ぶことができました。

午前中の講義では、人間の行動モデルをベースにヒューマンエラーの発生メカニズムを学びました。「どんなに優秀な人間も正しい情報がなければ正しい判断はできない」ということや、レビンの行動の法則 $B=f(P, E)$ 『行動（B）は人間側の要因（P）と環境側の要因（E）で決定される』という内容は非常に重要で、日々の業務を振り返るうえで非常に示唆に富むものでした。日常業務ではつい個人の能力や経験に目を向けがちですが、判断や行動は常にその人を取り巻く環境や与えられた情報に大きく左右されていることを改めて意識することができました。

その後、例題を用いて実際の分析手法について学びました。ベーシックコースでも学んだLevel I の分析から、一歩進んでLevel II の「イベントフローなぜなぜ」、Level III の「FRA分析」と進めていくにつれて思いもよらない要因が見えてくることがとても印象的でした。分析を行うために当事者の情報も詳しくまとめインタビューシートを作成することや、まとめた情報を時系列事象関連図に盛り込んでいくことで因果関係が整理され、大変理解しやすいと感じました。

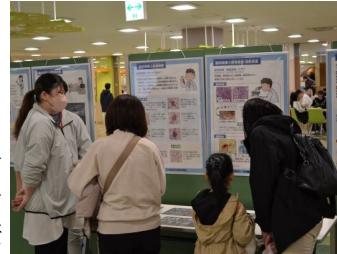
本研修を通してリスクに対する基本的な考え方についても理解を深めることができました。100%の安全は存在しないからこそ「受け入れることのできないリスクがない状態にする」という考え方のもとで、重大な事故や影響につながらないよう手順や環境を整えることの重要性を理解することができました。ひとつのインシデントに対してひとつの対策を講じるのではなく、複数の要因が存在することを前提にそれぞれに対策を行なう必要があるという考え方は、自身の業務における判断や行動を客観的に見直す良いきっかけになったと感じています。

午後からは課題が出され、他施設の参加者の方々とImSAFERを用いた分析を実際に行いました。立場や経験の異なる方々と意見を出し合うことで、自施設では気付きにくい視点や考え方を知ることができ非常に有意義な時間となりました。私の班では議論が深まり検討に時間を要したため最終的には時間切れとなっていましたが、それだけ多くの気付きや学びがあった演習だったと感じています。活発な意見交換が行われ会場は終始和やかで、学びの多い大盛り上がりの演習となりました。

最後になりますが、ご指導いただいた講師の先生、本研修を開催していただいた関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

全国「検査と健康展」2025 各地からの報告 第4回

青森県



去る2025年11月24日（月・振替休日）に、青森県臨床検査技師会では、3回目の「検査と健康展」を開催しました。過去2年間は八戸市にて開催ましたが、今年度は弘前市にある弘前駅前公共施設ヒロロスクエアにて、パネル展示と臨床検査体験ブースを設け、市民の健康意識と臨床検査技師の知名度向上を目指し、本事業を行いました。約200部の配布物を配布しましたが、受け取ってもらえるのは比較的年齢層が高い市民であり、若い世代へのアプローチの方策については要検討と思われました。臨床検査体験ブースでは、尿検査模擬体験、末梢血塗抹標本・細胞診標本の鏡検体験を市民の方に行ってもらいました。いずれも20名程の市民が体験し、尿試験紙の色の変化に驚くなど、「面白かった」、「勉強になった」などのたくさんの感想を頂きました。「臨床検査」や「臨床検査技師」について、一般市民への認知度はある程度は向上したと思われますが、継続的な取り組みが今後も必要と思われました。次年度は、より幅広い年齢層の方に体験ブースに足を

運んでもらえるように、広報活動や、臨床検査体験の内容を再考してみようと思います。

（青森県臨床検査技師会 須藤 安史）

栃木県



栃木県臨床検査技師会では、11月9日（日）10時から16時まで「検査と健康展in栃木」を福田屋鹿沼店1Fイベントスペースにて開催いたしました。当日はあいにくの雨となり、来場者は少なめでしたが、おかげで来場者お一人お一人といろんなお話ができ、十分な検査の説明と体験時間の確保が出来ました。昨年より検査の体験ブースを増やしていましたこともあり、来場者の滞在時間は大分長かったと思います。検査の体験では超音波検査体験の人気が高く、果物ゼリーやおでん、おくら、糸こんにゃくなどをエコー画像で観察してもらいました。はっきり穴の見えるちくわが一番人気でした。また、今回初の試みとしてシュミレーターを用いた採血体験を実施しました。針刺しの不安はあったもののスタッフの十分な説明と安全に配慮しながら無事に終えることができました。小さなお子さ

んからご高齢の方まで多くの方が普段体験できない体験を楽しまれており、やってよかったですと思いました。今後も新しい体験を取り入れながら臨床検査技師の仕事を知ってもらえたかったと思います。開催にあたりご協力いただいた理事の皆様、寺子屋とちぎの皆様、第2支部の皆様に感謝申し上げます。

(栃木県臨床検査技師会 黒川 敬男)

群馬県

群馬県臨床検査技師会は、11月9日（日）にJR前橋駅前の複合施設アクエル前橋会議室で全国検査と健康展を開催しました。例年同様、県下高校、市内小中学生に呼びかけ、高校生が訪れるやすいと思われる会場で開催したところ32組75名の方に来場いただきました。会場では臨床検査技師の業務を紹介するポスター・パネルを展示し、当日実務委員が臨床検査について丁寧に紹介しました。また、体験イベントとして尿検査、新型コロナウイルス検査、ろ紙によるクロマトグラフィー体験、血液型検査、超音波検査などの疑似体験や衛生教育としてUVランプを使った手洗いチェックで手指洗浄の仕方を学んでもらいました。来場者の中には臨床検査技師を目指している生徒や医療職種の中で選択を迷っている生徒、各種体験に興味を持ったリピーターの方も訪れ、それぞれの楽しみ方で過ごしていただけました。今年は天候が悪く、来場者の出足が鈍かったように感じましたが、青年部会の部会員のほか臨床検査を学んでいる学生からも応援協力あり、非常に活気があるイベントになりました。臨床検査技師の業務理解を広めるとともに、次世代への職業啓発の場として有意義な成果を収めました。今後も継続的な開催を通じて、地域社会への貢献と人材育成を推進してまいります。

(群馬県臨床検査技師会 野上 智治)



埼玉県

令和7年11月23日（日）、ソニックスティ901・902会議室にて全国「検査と健康展」埼玉会場を開催した。本年度は埼玉県県民生活部青少年課とのコラボレーション企画として「夢を見つける！リアル体験教室 プレミア教室」を実施し、小学校4年生から高校3年生の生徒とその保護者から参加があった。

若い世代をターゲットとした本企画に36名の参加があり、体験内容は顕微鏡による血液細胞や悪性細胞の観察、果物ゼリーを用いたエコー検査、飲料水を使っ



た尿検査、鼻腔検体採取体験など多岐にわたり実施し、併せて血液検査や心電図検査等のパネル展示も実施した。参加者からは「臨床検査技師になるためには？」「検査が分かれているのはなぜ？」などの質問も寄せられ、若い世代が臨床検査に関心を持つ契機となった。

今回は小学生からの参加が多く見られたが、来年度は中高生の参加者も増やすことを目標したい。そのために埼玉県との連携を一層強化し、開催案内の周知方法を工夫することで幅広い世代に臨床検査の魅力を伝えていきたい。今回の企画は、臨床検査の重要性と魅力を広く伝えるとともに、将来の臨床検査技師誕生が期待できる有意義な機会となった。

(埼玉県臨床検査技師会 塚原 晃)

千葉県

2025年「検査と健康展」in CHIBAは、254名の来場者を迎え、アンケート回収率は93.7%と高水準を記録しました。



参加者の満足度は非常に高く、特に採血・エコー・AGE測定などの体験型検査が「楽しい」「面白い」と好評を博しました。健康意識の向上や臨床検査技師への理解促進にも寄与し、教育的価値の高いイベントとして評価されています。また、スタッフの丁寧な説明と親切な対応、ショッピングモールという立地の利便性も来場動機として多く挙げられました。来場者層は子育て世代から高齢層まで幅広く、中高生層の参加促進が今後の課題です。次年度に向けては、検査項目の拡充や外部から内容が一目で分かる表示の工夫が求められます。全体として、本イベントは「楽しさ」「学び」「気軽さ」を兼ね備えた健康啓発の成功事例となつたと考えます。

(千葉県臨床検査技師会 秦 暁宏)

富山県

令和7年11月16日（日）まちなか賑わい広場グランドプラザで令和7年度検査と健康展 in TO-YAMAを開催しました。昨年と同様、体験コーナーや養成学校紹介を開催しました。体験コーナーとして、骨年齢・血管年齢・認知症検査・人体モデルでの採血・AED・野菜摂取度測定器の6部門を設置しました。臨床検査技師の仕事内容のパネル設置と、大型ビジョンで日本臨床検査技師会のDVD等を上映し啓蒙活動を行いました。臨床検査技師学校2校（北陸大学・岐阜医療科学大学）からは先生と学生が来県され、自校紹介を行いました。また大学毎の紹介も大型ビジョンで放映しました。多くの学生に参加を希望し、県内高校や市内中学校へチラシの郵送や配布を行い、昨年同様



ました。開始から骨年齢や血管年齢には老若男女問わず多くの方が参加されました。認知症検査・野菜摂取度測定器は高齢者の参加が多く、人体モデルでの採血・AEDは子どもが多く参加されました。採血に関しては、臨床検査技師が採血をしていることを話すとまだ知らない方が散見されました。まだまだ臨床検査技師の認知度は低い印象です。今後も検査と健康展を通して、臨床検査の正しい知識と普及・啓蒙を行い、国民の健康づくりの意識の高揚を図りたいと考え活動していきます。

(富山県臨床検査技師会 辻田 由加利)

石川県

北陸大学太陽が丘キャンパスで『こども臨床検査技師体験』を開催しました。応募で3



年生～6年生の参加者を募り、臨床検査技がどんな仕事をしているのか知つてもらう為に、保護者と共に体験して頂きました。

体験内容は、「超音波で見てみよう!」「摸擬血管で採血をしてみよう!」「顕微鏡で働く細胞を見てみよう!」です。超音波ではゼリーの中身が見えて驚いたり、摸擬採血では注射器に赤い液が入って喜んだり、顕微鏡で細胞を見つけてみたり、皆さん楽しそうに体験してくれていました。

地域の皆様と臨床検査を通して交流し、また臨床検査技師を身近に感じて頂く機会になったと思います。今後も臨床検査技師について知つていただく契機となれるよう活動していきたいと思います。

(石川県臨床衛生検査技師会 米澤 文枝)

佐賀県臨床検査技師会

「災害時の救護活動に関する協定」を佐賀県と締結

佐賀県臨床検査技師会 会長 平野 敬之

一般社団法人佐賀県臨床検査技師会は、令和7年12月18日に佐賀県との間において「災害時の救護活動に関する協定」を締結しました。災害発生時に、佐賀県からの要請に基づき避難所等における深部静脈血栓症(DVT)検査や感染症検査ならびに検体採取、医療機関等の検査室における臨床検査支援などに対応する内容となっています。

締結式は佐賀県庁旧館の県庁CLASSにて執り行われました。佐賀県からは種村昌也健康福祉部部長、野田広健康福祉部医療統括監、大橋孝太郎健康福祉部副部長の3名、当会からは平野、石隈麻耶副会長、森隆之副会長、石橋徳子副会長、牛島浩子事務局長と、今回協定締結にあたり佐賀県とのコーディネート役を務めていただいた佐賀県健康福祉部健康福祉政策課に所属する会員である森屋一雄佐賀県IHEAT事務局長の6名が出席し、滞りなく式を終えることができました。

締結にあたって、佐賀県との正式な調整が開始されたのは2025年1月からでしたが、前年の5月からコーディネート役の会員とのやり取りを開始し、担当窓口となった医務課と調整を進めてきました。やり取りの中で、当会の災害対策マニュアルをはじめ他県で締結された協定内容等の情報共有を行なながら事前準備を重ね、ようやく第1回目の打ち合わせを本年1月に開催することができました。

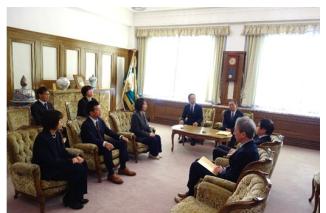
打ち合わせは4回開催し、日臨技から提供いただいた協定書たたき台をもとに、他県技師会で締結された協定内容や佐賀県すでに締結を完了している他団体との協定内容等のすり合わせを行ながら最終案を作

成し、10月に当会理事会承認を経て11月に佐賀県で締結が最終承認されました。

佐賀県健康福祉部には、現在3名の臨床検査技師が所属しており、今回の協定締結においても多くの情報共有や事前調整を行うことができ、行政との横の連携をスムーズに進めていくための重要な役割を果たしていただきました。

締結式終了後、医務課の担当者から、佐賀県で災害対応体制整備を進めている中、本協定締結は災害対応への第一歩であり今後の貴会との情報共有や調整がより効果的な活動のために重要と考えていますとのコメントをいただきました。当会においても、災害訓練をはじめとした佐賀県の災害対応体制整備に積極的に関わっていきたいと考えています。

最後に、これまで多大なるご支援をいただきました佐賀県健康福祉部健康福祉政策課、医務課の皆様、日臨技の皆様、当会会員の皆様に深く感謝を申し上げます。今後は、災害対策マニュアルの改訂や研修会の開催を行いながら、災害に備えた体制作りを着実に進めていきたいと考えています。



締結式の様子

災害時に動ける検査技師になるために、実践力を高め、連携できる関係を築く

HUG研修会を開催して（2）

✓避難所運営ゲーム（HUG）で学ぶ実践的災害対応力

一般社団法人長野県臨床検査技師会では、「災害時に動ける検査技師になるために、実践力を高め、連携できる関係を築く」をテーマに、2025年10月26日

（日）、信州大学医学部附属病院において「災害対応能力向上研修会および管理者研修会」を開催しました。

午前の講演では、災害発生時に臨床検査を継続するための体制づくりや、2025年5月26日に当会が長野県および一般社団法人日本臨床検査薬卸連合会関東甲信越臨床検査薬卸連合会と締結した全国初の三者協定

「災害時の臨床検査技師の派遣及び臨床検査薬等の供給に関する協定」に基づく検査技師の派遣・支援体制について、多角的な視点からご説明いただきました。知識面だけでなく、災害に備えて日頃から何を意識すべきかについても理解を深めることができました。

午後は、災害時の避難所運営を体験的に学ぶ「避難所運営ゲーム（HUG）」を実施しました。参加者は実際の状況を想定しながら行動を考える中で、平時から災害対応を意識することの重要性を確認する機会となりました。

✓避難所運営ゲーム（HUG）の概要

HUGは、災害時に避難所が直面するさまざまな課題を、カードを使って模擬体験するワークショップです。研修会では6グループ・各6名がチームを組み、役割分担のもと、限られたスペースや人員で避難者にどのように対応するかを検討しました。

カードには、避難者の年齢や健康状態、特別な配慮事項、施設内で生じるさまざまな問題が具体的に記載されており、次々と提示される課題に対応するため、チーム内で意見を交わしながら判断を積み重ねていきました。

✓体験を通じて得られた気づき

同じ状況であっても、チームごとに対応は大きく異なりました。迅速な振り分けを優先するチームがある一方で、避難者一人ひとりの健康状態や心理的ケアを重視するチームもあり、避難所運営における“対応の多様性”が浮き彫りとなりました。参加者からは、「運営の難しさを実感した」「予期せぬ問題に直面して考えさせられた」といった声が多く寄せられ、災害時には手順や知識だけでなく、柔軟な判断力やチームワークが不可欠であることを、あらためて認識する貴重な時間となりました。

✓参加者の声

アンケートでは、HUGの体験について次のような意見が寄せられました。

- ゲーム形式で楽しく学べ、思った以上に面白かった
- 災害時の避難所の具体的なイメージを持つことが

できた

- 避難所運営の難しさや混乱の大きさを実感できた
- 避難者には多様な背景があり、配慮が必要あることを理解した
- 自分が避難者・運営者・支援者のいずれの立場になつても課題があることに気づけた
- 臨床検査技師として、被災すれば受援者にも支援者にもなり得ることに気づけた
- 一度は体験しておくべき内容だと感じた
- 役割が変わつても、自分にできることを考えさせられた

さらに、参加者の84.8%が「最も印象に残ったプログラム」と回答し、90.9%が「実務に活かせる」と回答しており、HUGの有用性がアンケートからも裏付けられました。

また、参加者は避難所における、被災者、運営側、支援者（臨床検査技師）というそれぞれの立場で直面する問題や課題を体感し、「相手の立場を想像し、思いやりをもつて行動することの重要性」を学ぶとともに、災害時に求められる柔軟な判断力や協調性の大切さを、あらためて実感することができました。

✓避難所運営ゲーム（HUG）の成果と展望

今回のHUGを通じて、参加者は災害時に求められる判断力や協調性、そして避難者一人ひとりに寄り添う姿勢の重要性を実感しました。限られた条件下で多様な課題にチームで向き合う体験は、知識にとどまらない“実感としての学び”をもたらし、自身の役割や支援のあり方を深く考える契機となりました。

こうした経験は、臨床検査技師として日常業務に向き合う姿勢はもちろん、災害時に支援者として行動する際の柔軟性や協働力の向上にもつながります。災害はいつ発生するかわからないからこそ、HUGで養われる“考える力”と“支え合う姿勢”は現場で確実に生かされる力となります。

当会では今後も、臨床検査技師としての専門性を活かしつつ、地域医療を支える災害対応能力の向上を目指し、HUGをはじめとする実践的な研修を継続していく予定です。参加者一人ひとりが「自分だからできる支援」を考え、行動につなげていくことが、地域全体の安全・安心に寄与すると考えています。



（長野県臨床検査技師会 理事 矢口 勇治）

当会では国民の皆様に臨床検査技師の存在をもっと知っていただくため 季刊誌『ピペット』を発行しています。

2025 秋号 (vol.49) にも読後感想として、たくさんの感想や応援メッセージをいただきました。

医療現場で働く会員の皆様にも励みにしていただきたく、寄せられたメッセージをいくつかご紹介いたします。



- 初めてハガキを送ります。専門用語も読みがある分かりやすい。読み応えあります。（兵庫県・男性）
- 今回のインタビューはインパクトがありました。糖尿病の怖さが分かった。（鳥取県・女性）
- 採血室にあり、毎回楽しみで、家に持つて帰ります。（栃木県・女性）
- 毎月病院行ってるのに初めて読みました。私の父は糖尿病で失明しました。（神奈川県・男性）
- 毎号1ページ目の「つぶやき」が皆様の仕事が良く理解でき面白い（東京都・男性）
- 恥ずかしながら臨床検査技師という職種を知らなかった。子供の頃に知っていたら目指していたかも知れないと思った。機会があれば今の子供達に紹介したい。（静岡県・女性）
- 臨床検査技師ですが、初めて手に取った。研究職ですが、臨床に携わっている皆さんことをもっと知りたい。素敵な一冊です。（千葉県・女性）
- 臨床検査技師の仕事の範囲は広く、血液検査やエコーなどは多くの方が経験していると思います。肝機能検査で技師さんから一緒に声をかけて頂いた事もありました。（東京都・女性）

**『季刊誌ピペット』を配布いただける施設を募集しています。
冊子・送料は無料です。イベント等での単発の配布も承ります。**

ご協力いただける方は右のURLから「配布協力施設登録申込用紙」をダウンロードし、ご記入の上、当会事務局までFAXまたはメールでお申込みください。

過去号をご覧になりたい方はQRコードからも閲覧いただけます。

[https://www.jamt.or.jp/
books/pipette/](https://www.jamt.or.jp/books/pipette/)

Fax: 03-3768-6722
mail: pipette@jamt.or.jp



(編集後記)

暦の上では一年で最も寒さが厳しい「大寒」を過ぎ、立春を目前に控える季節となりました。寒気の中にも少しずつ日足が伸び、春の気配を感じられるようになってきました。さて、2月といえば臨床検査技師国家試験のシーズンです。受験生の皆様は、長きにわたる努力の成果を発揮すべく、ラストスパートをかけていることと思います。私たち現役の技師にとっても、かつての緊張感を思い出し、初心に帰る良い機会でもあります。未来の仲間たちが万全の体調で挑めるよう、心からのエールを送りたいと思います。皆様も体調管理にはくれぐれもご留意ください。

(直田)